

泉のほとり

●三位一体後第四主日

今月の詩編「第三十四編」

味わい、見よ、主の恵み深さを。

いかに幸いなことか、

御もとに身を寄せる人は。



自分のものと言う者はなく

「全ての持ち物を分け合い、財産を売り払い、そのお金を分配していた」との初代教会の様子。このテキストは共産主義やカルト的なことを教えていません。また全財産を売り払って、献金するようにと教えていません。使徒たち、弟子たちの信仰を教えてください。

使徒たちは、教会に持ち物をささげなさい、売り払いなさいと指示したことはなく、弟子たち一人、一人が、自らすすんでささげていました。家や畑さえ売り払っています。自ら貧しくなるのです。それを実行し、受け入れることに、大きな信仰があると思います。他のテキストでは、彼らが自分のものを手放しても、喜んで食事をし、賛美していたと証しています。生き生きとしていた弟子たちの姿を見ますと、全く惜しいと思っていない印象です。

彼らの信仰を知る手がかり、「持ち物を自分のものだと言うものはなかった」ということです。あらゆるものがあっても、自分のものだとこのこだわりがありませんでした。今の世の中を見ますと、お金や財産をめぐる人同士の争いが起こっています。自分のものだと主張します。一方、弟子たちは自分のものと言いませんでした。この世の富よりも、はるかに価値あるものを見出していったからです。

弟子たちが財産を売り払ったことと共に、使徒たちが「主イエスの復活」を証したとの内容があります。弟子たちが自分のものをささげたことと「復活の信仰」とは無関係ではありませんでした。復活、よみがえりの命、そこに、この世の価値あるものよりも、はるかに高く、尊い価値を見出していったのです。

神さまは御子イエスを復活させられました。ご自分をささげられた聖なる方が死に支配されたままということはありなかつたからです。初代教会の弟子たちは、一人ひとりを生かすために死んでくださった方、神が死者の中から、よみがえらせた方を知り、主の心とらえられていたのです。いざれ過ぎ去ってしまうこの世のものにこだわる心が捨てられ、自らも主が歩まれたように歩み、神さまに喜ばれ、よみがえりの命にあずかること、その望みに全ての心を注いで生きるものとされたのです。

主はわたしたちを生かすために十字架を負ってくださいました。主はよみがえられました。主を通して、自分自身をささげて生きること、そこに神に喜ばれる道があり、そこに復活にあずかる希望があることまで示されたのです。心砕かれたものたちが、主イエスに従い歩んでいくように、復活の望みに目を向けて、生きるようにと。

初代教会の弟子たちは、自らすすんで、自分のものを与える、隣人を助ける、自分自身をささげていく、その心で満ち溢れていたのです。それが、自分のものだと言わないことに表れていたのです。キリストから受けた恵みを表していました。この世のものに望みを置くのではなく、天に望みを置き、主イエスの復活に連なる、復活の命を望みとして生きていたのです。

わたしたちはこの世で、永遠に生きるものではありません。わたしたちがこだわり、目を向けるべきものが果たして、この世にあるのでしょうか。初代教会の信仰、使徒たちの信仰を学びつつ、過ぎ去っていくものではなく、よみがえりの命に目を向けて、励んでいきたいと思えます。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

《今日のお知らせ》

○ 特別なお知らせはありません。

《礼拝伝道委員会より》

○ 本日の礼拝後、一二時から一二時四五分まで(目途)地下ホールで「御言葉の分かち合い」の会を行います。小グループに分かれて話し合います。どうぞご参加ください。

《ぶどうの会より》

○ 御言葉の分かち合いの会があるので、ぶどうの会はお休みです。

《今後の予定》

- 七月七日 信仰者に学ぶ会
- 七月一〇日～一二日 附属幼稚園奥多摩キャンプ
- 七月一四日 諸聖徒記念礼拝
- 七月二一日 定例役員会

《教会事務所より》

○ これまで週報に使用していた用紙の取り扱いが終了したため、本日の週報から新しくなっています。

《ルツの会より》

○ 次週、六月三〇日の主日礼拝後、カナンルームでルツの会を行います。聖書箇所は出エジプト記二章、テーマは「イスラエルをかえりみる神さま」です。時間は四〇分程度を予定しています。初めの方も歓迎します。聖書、讃美歌をお持ちの上、どうぞお気軽にご参加ください。

《ラバウル便り》

パプアニューギニアへの渡航における忍耐と体力

今回羽田空港からパプアニューギニアに渡航をした際幾つもあるチェックポイントをまとめてみました。ちなみに今回は羽田空港→マニラ→ポートモレスビー(以下POM)→ラバウルという経路でした。

羽田空港で搭乗シトクア(新ラバウル空港)空港を出るまで数えたら一八か所のチェックポイントがありました。それら全ての審査と検査を経てようやく仕事場であり家族がいる東ニューブリテン州に着きました。

最悪だったのがPNGの首都POM空港でした。五月一日ラバウルの予定でしたが、ラバウルに着いたのが五月一三日の昼前でした。POMで予定外の三泊、航空便四便のキャンセル、POMの空港での待ち時間は合計約三三時間でした。初日のPOMでの宿泊ですがマニラからPOMの航空便がフィリピン航空だったので、エアニューギニ航空(PX)は宿泊を提供する責任は無いという事で自己負担。キャンセルになった四便の内搭乗券も三回発給してくれたのですが乗れませんでした。其のうちの一枚は搭乗ロビーから搭乗の案内を受けて搭乗口まで行ったのですが、乗せてもらえませんでした。五月一日の宿泊だけPXが負担してくれましたが、ここ数か月PXはキャンセルが多発しているので、乗客の宿泊の負担は一泊だけ、という無責任な告知もされていきました。燃料不足とトクア空港の滑走路の修理中

という事で、トクア便が特にキャンセル便が多いのです。五月一日、二日そして三日まで早朝二時起き、三時前にPOM空港に到着すると既に一〇人以上の乗客が外で列を作っていました。警備員はいますが空港職員が来ていないのでゲートが開きません。それでも翌日の便の案内を確認すると朝三時に空港に来ているように、と指示されるのです。

日本はとてもシステムがしっかりしている国で素晴らしいですね。ひとり一人を大切にしてくれる国です。あと一〇日程で帰国しますが、POM行の飛行機に乗れるかその心配を始めています。PNGで生きるためには体力と忍耐力が求められています。

荏原美知勝記

《今日の子ども礼拝》

説教 「大臣になるヨセフ」
聖書 創世記41章41〜44節
説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説教 「憎しみを超えて」
聖書 創世記42章6〜17節
説教者 吉村和雄名譽牧師

●主日礼拝(午前10時30分)
讃美歌 73番 537番
説教 「互いに愛し合いなさい」
聖書 ヨハネ13章31〜38節
説教者 黄允湜牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 491番 333番
説教 「サタンに操られやすい人」
聖書 ヨハネ13章21節～30節(新約 P.195)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「前奏曲とフーガハ長調」J.バーム

○讃美歌491番

1. きよき朝よ たのしき日よ
世のちりより しばしはなれ
つきせぬよろこび うくるぞうれしき
2. 主はさかえの みくらにつき
きよき民をおさめたもう
つみあるひとびと かしこみおそれよ
3. みたまの鳩 ここにくだり
主のめぐみを とくしめして
われらのところを あらたにしたまえ

アーメン

○讃美歌333番

1. 主よわれをば とらえたまえ
さらばわが霊は 解き放たれん
わがやいばを くだきたまえ
さらばわが仇に 打勝つをえん
2. わがところは さだかならず
吹く風のごとく たえずかわる
主よ、御手もて ひかせたまえ
さらば直きみち ふみゆくをえん
3. わがちからは よわく乏し
暗きにさまよい 道になやむ
あまつ風を おくりたまえ
さらば愛の火は 内にぞ燃えん
4. わがすべては 主のものなり
主はわが喜び また幸なり
主よ、みたまを 満たしたまえ
さらば永遠の 安きを受けん

アーメン

聖餐曲「罪人なる我、何をすべき」J.S.バッハ

後奏曲「ピスガ」D.ウット

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。